



Nagoya University COI-NEXT
My-mobility Co-creation Center



キックオフシンポジウム

地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点

～みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」をかなえる超移動社会～

森川 高行 プロジェクトリーダー
(東海国立大学機構 名古屋大学 未来社会創造機構 教授)

2023年3月28日



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency



MAKE NEW STANDARDS.
東海国立
大学機構



名古屋大学

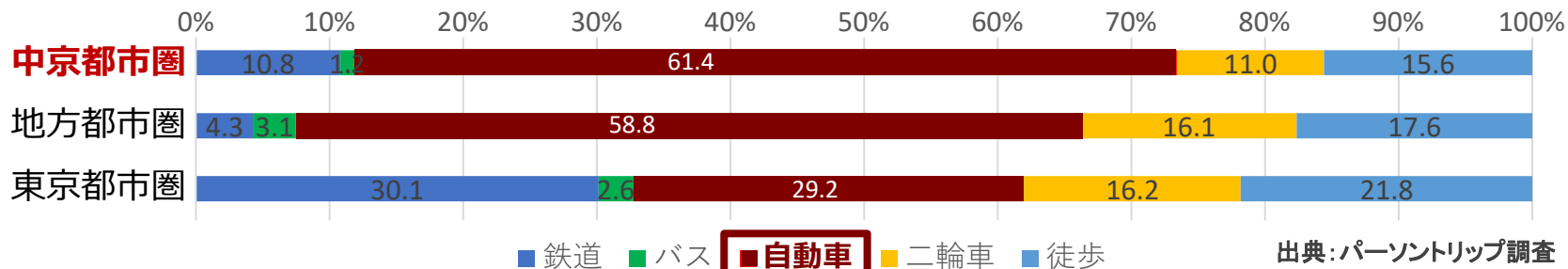


COI-NEXT

地域に住み続けたいが、住み続けられない
未来がすぐそこまで迫っている

暮らしたいと思わない理由
第1位が「交通の便が良くない」
※令和3年度春日井市市民意識調査

マイカーで移動することが**あたりまえ**の東海地方(及び東京以外のほとんどの地域)



コロナ禍

公共交通の分担率の低下がもたらすもの

人口減少

公共交通の利用者減少

交通事業者の経営悪化

悪循環

公共交通のサービス低下

マイカーを使わない人の移動が極めて不便

- ・ QOLの低下
- ・ 社会活動の機会喪失

自動車の過大利用による社会的コスト増加

- ・ 渋滞・事故・温暖化ガスなどの外部不経済
- ・ 自動車利用の無駄な時間・費用

高校生、ベンチャーなど多様な参加者によるワークショップ（WS）で 未来のありたい地域社会を洞察

※WSを4回開催、参加者（延べ人数）：111名（女性29名、男性82名）



参画機関（自治体・企業・大学・研究機関）だけでなく、
高校生・大学生・市民・ベンチャーらと未来のありたい地域社会について議論を繰返し、
バックカスティングでビジョンとターゲットを導出

マイカーを使わない人の移動が極めて不便

自動車の過大利用による社会的コスト増加

参画機関によるワーキング（WG）で 未来のありたい地域社会をバックキャストと深掘りによる課題抽出

未来のありたい地域社会の方向性

- ・ **マイカーを持たない人**でも持続的に暮らしていける地域を目指し、**地域の移動問題に積極的に関わり作り上げた移動手段（=マイモビリティ）**の実現
- ・ 社会的コストも考慮した**次世代も維持できる地域モビリティのモデル構築**

共創したい未来のありたい地域社会

- ・ **誰もが自由に社会参加**できる
- ・ 地域を**次世代につなげたい**
- ・ 心もともに**楽しい移動**
- ・ 電気抵抗がゼロになる超電導のように、**移動の抵抗（ストレス）が極めて小さくなる社会（=超移動社会）**

地域を次世代につなぐ
マイモビリティの共創

「行きたい」「会いたい」「参加したい」
をかなえる超移動社会



マイカーを使わない（運転できない、したくない）人

車離れが進むZ世代など

社会への公平なアクセス機会を提供

COI

次のステージ

高齢者の移動



マイカーの
運転支援を含む
・通院
・買い物など

COI-NEXT

若い世代の移動まで



免許を持ってない
世代



マイカー文化を
持たないZ世代



家族の送迎、通勤・通学
・幼稚園、保育園、習い事などの送迎
・駅までの移動
・満員の公共交通や渋滞などのストレス



買い物など
日常の外出

電気抵抗がゼロになる超電導のように、移動の抵抗（ストレス）が極めて小さくなる社会（超移動社会）と移動問題に主体的に関わり・作り上げた移動手段（マイモビリティ）

地域の循環器である移動システムを高度化・持続化し、
マイモビリティによる超移動社会の実現を目指す

拠点名：地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点

地域拠点ビジョン

みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」
をかなえる超移動社会



拠点名：地域を次世代につなぐ マイモビリティ 共創拠点

地域拠点ビジョン

みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」
をかなえる超移動

マイモビリティ：移動問題に主体的に関わり、作り上げた移動手段
「マイカー」から「マイモビリティ」へ



拠点名：地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点

地域拠点ビジョン

みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」
をかなえる超移動社会

超移動社会：電気抵抗がゼロになる超電導のように、移動の抵抗（ストレス）が極めて小さくなる社会



みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」
をかなえる超移動社会

マイカーを使わない（運転できない、したくない）
人にも社会への公平なアクセス機会を！

ターゲット1

地域モビリティ充実による社会参加機会
とビジネスチャンスの増加



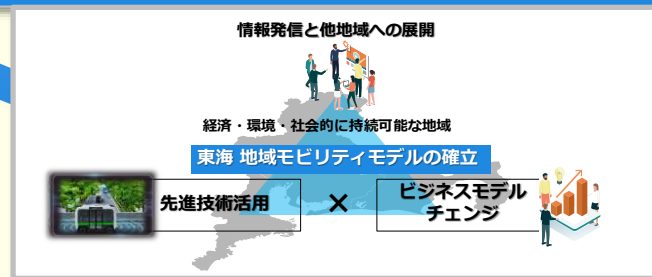
ターゲット2

移動ストレスが減り、移動が楽しくなり、社会的コストも最小化する地域モビリティシステムの実装



ターゲット3

「東海地域モビリティモデル」
の確立と他地域への発信・展開



ターゲット1

地域モビリティ充実による社会参加機会とビジネスチャンスの増加



“超移動社会”によって、市民が失っていた様々な活動機会を取り戻し、販売・雇用・イノベーションを通して企業にもビジネスチャンスを創出

ターゲット1

地域モビリティ充実による社会参加機会とビジネスチャンスの増加

- 交通不便地域に住む人がストレスなく、いろいろな場所に行ける
 - 車を運転しなくても、誰もがいろいろな場所にアクセスできる
 - 子供がどこにでも通学できるようになる
 - 高齢者が自ら買い物、娯楽、医療などで外出できる
- 事業者にはビジネスチャンスが生まれる
 - 顧客が増える
 - 従業員を集めやすくなる
 - クリエイティブな人たちとの関りが増える
- 自分のライフスタイルに合った場所に住みやすくなる
 - 地方都市、農山村地域などでも移動に困らない

ターゲット2

移動ストレスが減り、移動が楽しくなり、
社会的コストも最小化する地域モビリティシステムの実装

快適で楽しい移動と社会的コストの最小化



超移動社会のための地域モビリティシステムの構築・実装

現在、マイカーを使わない移動は、不便なダイヤ、面倒な乗り換え、満員の車内などストレスフル。先進技術やビジネスモデルチェンジで“超移動社会”を実現し、渋滞・事故・環境負荷などの社会的コストも最小化

ターゲット2

移動ストレスが減り、移動が楽しくなり、 社会的コストも最小化する地域モビリティシステムの実装

- 公共交通利用時のストレスが減り、楽しい移動になる
 - 好きな時間に外出できる
 - 端末での徒歩や乗り換えが少なくなる
 - 座っていける
 - 他人との乗り合いが無い
 - 移動中に、役に立ち楽しい情報が得られる
- 交通による社会的コストが小さくなる
 - 自動車利用による渋滞、事故、環境負荷が少なくなる
 - マイカーを運転している時間が少なくなる
 - マイカー保有のコストが減る
 - 街の中心部に賑わいが復活する

ターゲット3

「東海地域モビリティモデル」の確立と他地域への発信・展開

情報発信と他地域への展開



経済・環境・社会的に持続可能な地域

東海 地域モビリティモデルの確立



先進技術活用

×

ビジネスモデル
チェンジ



自動車産業の中心地である東海地方から、持続可能な地域モビリティモデルを
確立し他地域へ発信・展開

ターゲット3

「東海地域モビリティモデル」の確立と他地域への発信・展開

- 東海・中部地域において「地域モビリティモデル」が確立される
 - 先進モビリティのメッカとして地域のプレゼンスが上がる
 - 地域内のモビリティ系産業が活性化する
 - 産官学連携のノウハウが蓄積される
- 他地域へ横展開される
 - 先進モビリティ関係のビジネスチャンスが増える
 - 全国・世界で、地域モビリティの恩恵を受ける

みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」
をかなえる超移動社会

マイカーを使わない（運転できない、したくない）人にも社会への公平なアクセス機会を！

ターゲット1

ターゲット2

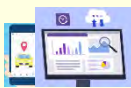
ビジネスモデルチェンジ

研究開発課題2

地域モビリティサービスを持続可能にするビジネスモデルチェンジ

公共財プラットフォーム

ソフト



運行の仕様、情報の規格・フォーマット

リアル財



先進モビリティ・ICT技術

研究開発課題3

快適で低コストな地域モビリティシステムの開発

地域モビリティシステム



研究開発課題4

移動価値を高める多感覚インフォテインメントシステムの開発

インフォテインメントシステム



実装のための総合知

研究開発課題5

総合知の活用による社会的価値の評価と社会実装の推進



心理的well-being

応答型（PDCA）研究開発

ターゲット3

「東海地
確立と

地域実装に向けたフラッグシッププロジェクトの遂行

研究開発課題1

漸進的地域創生と応答型研究開発を進めるフラッグシッププロジェクト

- ①名古屋東北回廊
- ②歴史的商業地区再生
- ③遊覧都市再生

応答型研究開発を通して漸進的に地域を創生



①名古屋東北回廊プロジェクト

名古屋駅と春日井市高蔵寺ニュータウンを結ぶ回廊地域において、自動運転、バス高度化、オンデマンド乗合交通、MaaSなどを組み合わせた地域イノベーション

②歴史的商業地区再生プロジェクト

歴史的商業の街「エキ・シロ地区」において、自動運転など先進モビリティに楽しさを体験できるモビリティの導入による地域イノベーション

③岐阜市遊覧都市再生プロジェクト

昭和初期に掲げられた「遊覧都市」構想を自動運転バスによって再発進する地域イノベーション



マイクロ MaaS + オンデマンド乗合交通

②歴史的商業地区再生プロジェクト

岐阜市都心部
・川原町地区

自動運転バス

岐阜駅 (交通結節点)



名古屋駅 (交通結節点)

名古屋市

①名古屋東北回廊プロジェクト

マイモビリティ／マイタウン イニシアチブ

地域が手掛ける“マイクロMaaS”と“広域MaaS”の連携

マイクロMaaS

- ・ 地域の住民、集客施設、自治体などが、交通事業者や研究機関などの協力を得て構築する、地域内移動のニーズに合った近距離移動システム
- ・ スマホアプリ、Webサイト、電話センターなどによるUI
- ・ 大曽根・矢田MaaS、エキ・シロMaaS、春日井MaaSなど

広域MaaS

- ・ 日常的移動範囲（名古屋都市圏など）をカバーするMaaSシステム
- ・ スマホアプリを基本とするUI
- ・ 名鉄CentX、My Route など

リアル財（インフラや車両）を公共財として共有するプラットフォーム（公共財PF）の構築



マイモビリティを実現するための先進モビリティの開発

快適で低コストな地域モビリティシステムの開発



シミュレーションによるPRTの検討



デュアルモードバスの検討



レベル4自動運转向け、市販車のEV化や運航設計領域（ODD）の記述法の構築に向けた検討

総合知の活用による社会的価値の評価と社会実装の推進



自動運転社会を見据え、自動運転車の事故の法的責任に関するシンポジウム（ウェビナー）を開催
(2022年12月20日)

移動価値を高める多感覚インフォテインメントシステムの開発

- 生活をナビゲートするライフコンテンツの提供
- マルチモーダルにアクセスするインフォテインメントシステム



先進モビリティ社会実現に向け、ハードとソフトの両輪の研究を推進

地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点



松尾清一
機構長



杉山直
総長



佐宗 章弘
副総長



森川 高行
PL



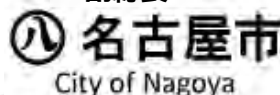
安藤 章
副PL



日下 雄介PL補佐
(名古屋市住宅都市局長)



加藤 達也PL補佐
(春日井市副市長)



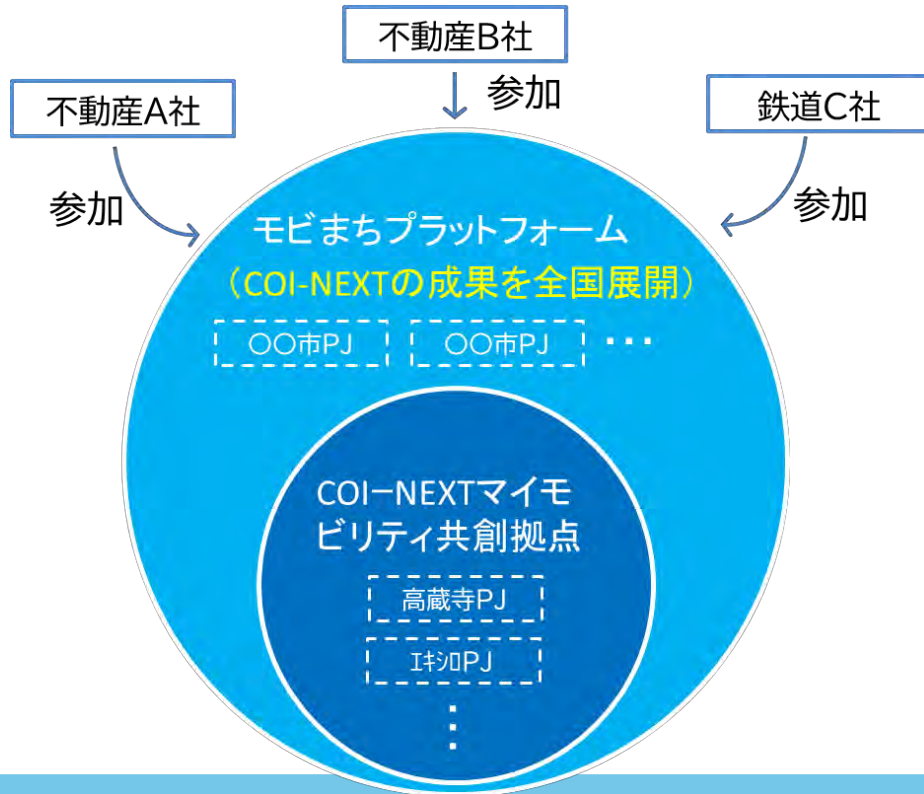
移動の課題解決ができる場



7企業/団体、5大学/研究機関、4自治体のアンダーワンルーフで推進

モビまち研シンポジウムの開催

- ・本拠点の成果を、国内外他都市に横展開することを目指し、まちづくりに関係する国内大手企業(大手不動産開発会社や鉄道会社、行政機関等)と本拠点のプラットフォーム(名称:モビまち研プラットフォーム)の構築を目指す。
- ・本プラットフォームの立ち上げとPRを目的として、本拠点と日建設計グループが共催で、第1回モビまち研シンポジウムを開催(令和4年12月2日、東京都内)。
- ・会場107名、オンライン650名が参加。



第1回モビまち研シンポジウム

先進モビリティを
活用したまちづくり

ハイブリッド開催・併席料:無料

2022/12/2 FRI

16:00~18:00 / 併席料: 18:10~19:10

河田スクエア・スクエアホール (先着100名)

COI-NEXT マイモビリティ共創拠点、日建設計グループ

名古屋大学は、2022年秋に「COI-NEXT マイモビリティ共創拠点」を設置し、差別化社会課題になっている地域の交通課題に対するイノベーションを提案とその実装を目指します。日建設計総合研究所は、名古屋大学と協働で本共創拠点を運営支援するとともに、モビまち研を立ち上げました。

自動運転、MaaS、パーソナルモビリティ等の先進モビリティ技術が目玉されるなか、これらが本場に「人」と「まち」に有益なものとなるには、まちづくりと一体で実施しなければなりません。本共創拠点では、技術開発先行で進む先進モビリティを、「まちの魅力」と「人々の幸福」を実現する「都市の発展」に発展させるとともに、全国に波及させることを目指しています。

本シンポジウムは、マイモビリティ共創拠点の取組を広く知ってもらうとともに、全国のモビリティ分野の企業・団体に加え、まちづくり分野の習練にも広く参加頂くことを目的として開催します。

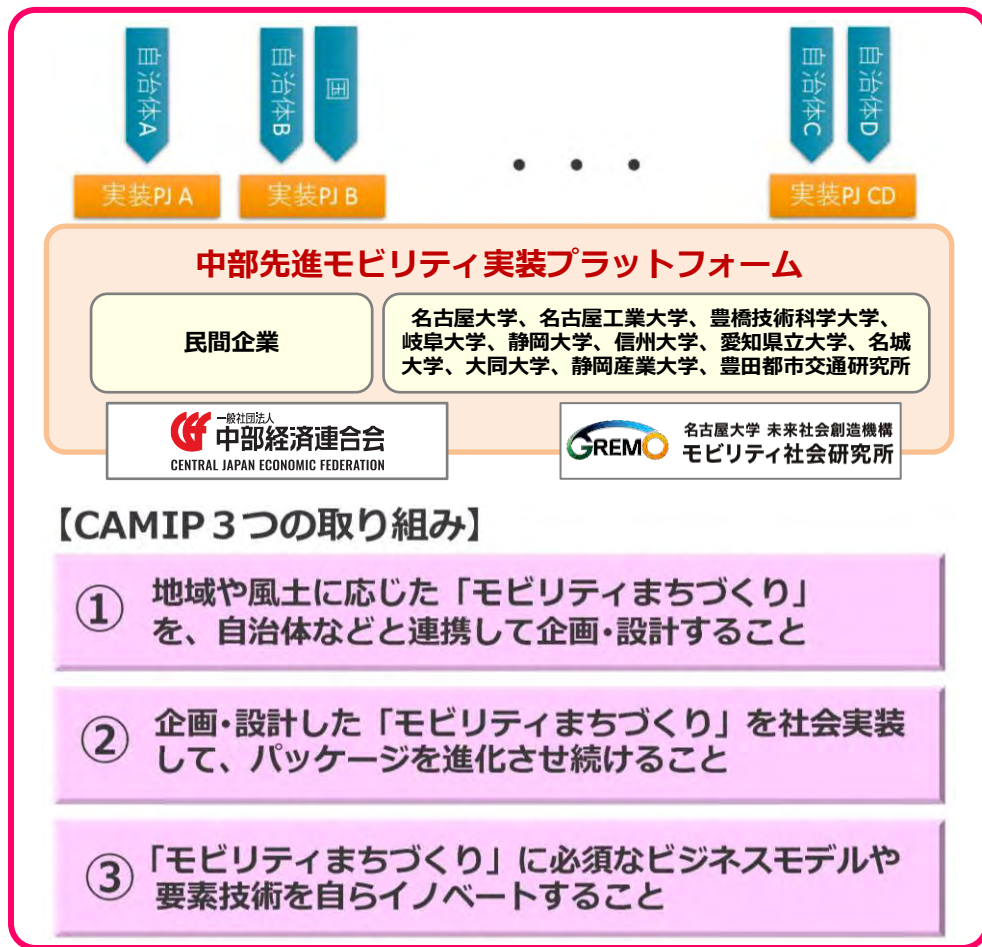
※COI-NEXT マイモビリティ共創拠点、名古屋大学が教育機関の役割の果たして(設立)した、先進モビリティの開発と普及推進のための研究拠点。2022年度~2023年度にかけて、工学、法学、心理学、建築学等の関係者からモビリティ研究者を募集する。

講演者	所属	プログラム
森川 高行	名古屋大学 名古屋社会創成機構 モビリティ・社会設計 教授 COI-NEXT マイモビリティ共創拠点 プロフェッショナル	16:00~18:10 開場挨拶・参加説明(挨拶・兼席料無料) 日建設計総合研究所 主要研究員 名古屋大学 建築学部 COI-NEXT マイモビリティ共創拠点 事務局長 河田 浩二
金森 亮	名古屋大学 名古屋社会創成機構 モビリティ・社会設計 研究員 専任准教授	16:10~16:30 講演者: 森川 高行 【名古屋大学COI-NEXT マイモビリティ共創拠点 について】
長束 晃一	株式会社 社会インフラ戦略部 戦略企画グループ 主査	16:30~16:40 講演者: 金森 亮 【先進モビリティによるまちづくりの再考】
西田 司	オンデザイン代表 東洋経済大学 専任教授	16:40~16:50 講演者: 長束 晃一氏 【最新型自動運転サービスがまちをどう変える(前)】
		16:50~17:00 講演者: 西田 司氏 【まちづくりの観点からみるモビリティへの期待(前)】
		17:00~17:10 コーヒーブレイク
		17:10~17:50 パネルディスカッション
		17:50~18:00 質疑
		18:00 閉会
		18:10~19:10 懇談会

中部先進モビリティ実装プラットフォーム

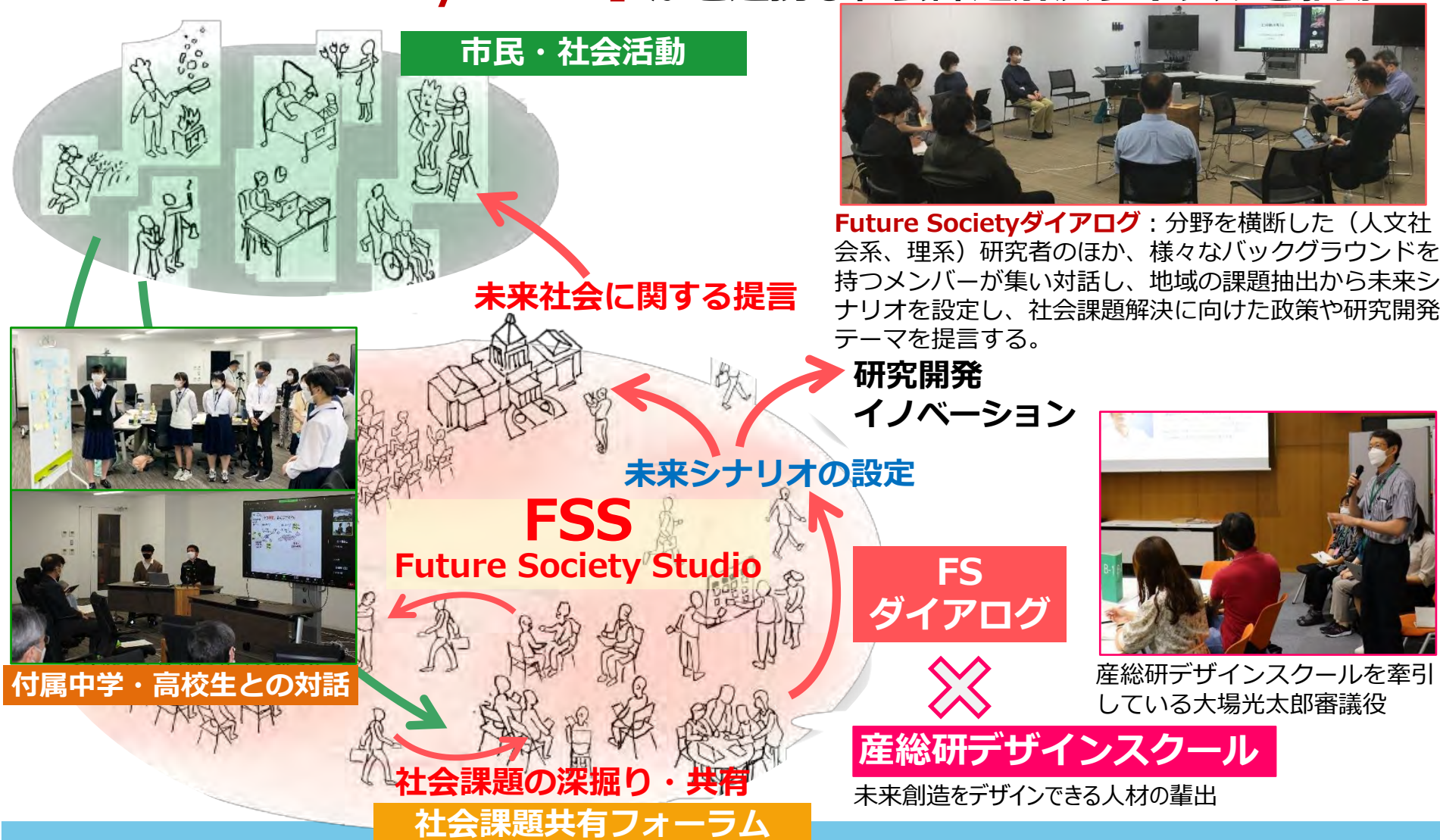
(Chubu Advanced Mobility Implementation Platform, CAMIP)

- 中部圏における自動車CASE革命を地域に実装し、**その価値を社会に還元すると共に、産業振興と研究開発の促進させるための産学官のプラットフォームを構築**
- 中部経済連合会所属の企業、中部圏の自治体や大学・研究機関が連携**してプロジェクトにおける組織マッチングやモビリティ共通基盤の開発
- 中部先進モビリティ実装プラットフォーム幹事役は、**中部経済連合会及び名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所**が担う。



2023年12月21日(水)にCAMIP（中部先進モビリティ実装プラットフォーム）およびMap-NAGOYA（モビリティアクセスポイント ナゴヤ）のイベントをナゴヤイノベーターズ ガレージにて開催
約240名（会場およびオンライン）が参加

Future Society Studioと連携による社会課題解決サイクル 市民との対話を交え、総合知で社会課題解決を目指す 「Future Society Studio」がと連携し社会課題解決サイクルを駆動



Future Societyダイアログ：分野を横断した（人文社会学系、理系）研究者のほか、様々なバックグラウンドを持つメンバーが集い対話し、地域の課題抽出から未来シナリオを設定し、社会課題解決に向けた政策や研究開発テーマを提言する。



産総研デザインスクールを牽引している大場光太郎審議役

産総研デザインスクール

未来創造をデザインできる人材の輩出

『みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」をかなえる超移動社会』

地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点

